

得ています。部会活動は、市場との圃場の現地視察や土壌分析調査を行っています。また、10年前からは鳥越、野々市の部会と広域的なグループを結成し幅広い研修も行っていきます。

【羽咋都市切花研究会】

活動の活性化に取り組んでいます

羽咋都市切花研究会では、平成3年の結成以来長らく会員相互の研鑽活動と親睦を図って参りました。しかしながら、会員の高齢化、研修会参加者の固定化など、活動にマンネリズムが生じ、活動の停滞化、参加率の低下が生じていました。

そのため、切花葉ポタンの栽培が県下全域で行われるようになったことを期に、昨年、中能登地域全体で栽培講習会や巡回を行うため、七尾鹿島フラワーメイツと合同での切花葉ポタン栽培研修組織を初めて立ち上げました。そこで

今後の課題は、新しい品目の定着化と品質の向上、そして、それを維持する努力であると思っています。

(JA松任花き部会長 山田峰雄氏)

は、栽培者相互の技術研鑽、指針の統一化を図りました。

本年からは、その活動を地域全体に取り入れるべく、春には、七尾鹿島フラワーメイツの小菊生産者を招いて羽咋都市の小菊現地検討会を開催しました。また、秋には県外研修を合同で行い、相互の技術交流と親睦を深めています。

この活動を通じ、技術研鑽や親睦のみならず、切花葉ポタンのブーケタイプなどの新たな商品開発に繋げた取り組みが出来ればと思っています。

(羽咋都市切花研究会事務局 間明一豊氏)



七尾鹿島フラワーメイツの皆さんも参加した小菊現地検討会の様子



親睦を深めた秋の県外研修



期待の新人(！?)
ブーケタイプの切花葉ポタン

◆今後の活動予定◆

第3回石川県花き品評会(対象品目:切花葉ポタン)

審査 11月28日(能登地区)、12月5日(加賀地区)

表彰式 2月下旬予定

*多数の皆様の応募をお待ちしています(11/19まで)。

花だより

●発行 石川県花き園芸協会
事務局:石川県農林水産部生産流通課内
金沢市穀月1丁目1番地
TEL (076)225-1621
FAX (076)225-1624

Vol.4

発行日 平成19年10月31日

協会の活動紹介

8月咲き小ぎく等品種検討会を開催

平成19年8月24日(金)の午後2時から石川県農業総合研究センターにおいて、平成19年度8月咲き小ぎく等品種検討会が開催され、市場関係者、全農、JA、県、会員の方々、32名の参加をいただきました。

8月咲き小ぎくの品種検討会は協会の恒例行事となっていますが、本年度は、菊の種苗メーカーである精興園から無償でさし苗の提供をいただき、県農業総合研究センターのご協力を得ながら中輪ぎくを含めて38品種の比較を行いました。当日は、精興園の担当者にも出席していただき、会社の農場で露地電照栽培を行った

数種類の品種も展示されました。

検討会では、県農業総合研究センターの吉住専門研究員から品種比較試験結果の概要について説明をいただいた後、展示場所へ移動し、中央普及支援センター梅田担当課長の進行で花色別に有望品種の検討を行いました。選定された有望品種は表のとおりです。なお、本年度は、県内で生産したさし苗ではなかったことや開花が全般的に遅れたことなどにより明確な開花日が判断できないため、次年度も引き続き栽培試験を行うこととなりました。



寺本会長あいさつ



検討会の様子



花色別に有望品種検討

平成19年度 8月咲き小ぎく有望品種

花色	品種名	収穫日(月/日)	切花長(cm)	着花節位(節)	切花重(g)	節枝数(本)	花蕾数(個)	備考
白	はじめ	8/12	88.4	45.5	74.0	7.9	19.0	対照品種
	精しなみ	7/23	74.9	36.2	74.1	9.4	23.7	
	050-2004	8/5	73.1	37.9	54.9	9.6	26.1	
	050-2111	8/17	81.6	36.6	60.6	9.1	24.9	
黄	あけみ	8/9	94.4	40.8	77.3	9.3	18.4	対照品種
	精わごう	8/3	86.4	40.1	75.9	9.7	19.3	
	はるな	7/27	70.8	28.7	63.9	9.1	24.1	
赤	050-2015	8/7	79.3	37.3	70.9	9.4	19.6	
	おふく	8/9	104.9	35.9	74.5	6.9	35.9	対照品種
	糸子	8/4	86.9	35.3	54.0	6.8	15.5	
	精あかり	8/19	91.4	45.1	97.6	6.0	34.8	
	030-2111	8/13	90.1	37.9	71.3	8.0	30.1	
	精ちぐさ	-	-	-	-	-	-	精興園提供



050-2004 (白色)



精わこう (黄色)



精あかり (赤色)

切花葉ボタン現地検討会を開催

平成19年10月5日(金)の午後から、市場関係者、全農、JA、県、会員による切花葉ボタン現地検討会が開催されました。当日は、宝達志水町の稲垣農園を出発し、金沢市粟崎地区の現地圃場を巡回した後、県農林総合事務所大会議室において検討会が行われました。

現地検討会には、金沢総合花き株式会社から2名、株式会社金沢花市場から1名のご出席をいただいたほか、なにわ花いちばの担当者にも参加していただき、主催者代表として挨拶された西村理事(JA金沢市砂丘地集出荷場フラワー部会長)からは、「県内外の市場の方と一緒に現地検討会を開催できたことは、たいへん意味のあること」とのお話がありました。なお、午前中には、県の花き担当者等が県内の状況を把握するための加賀地区巡回を行っており、総勢28名の参加をいただきました。

市場の方からは、「切花葉ボタンはまだまだ伸びる品目、もっと増やしてほしい」、「良いもの、実需者が求めるものを作らなければ価格は

維持できない、悪い物を捨てる意識が必要。」、「出荷時期が年末の一時期に集中する品目であり、予約取引でどれだけ売れるかが勝負、約束した本数をきちんと出荷できることが大前提。」などといったご意見がありました。

続いて、県農業総合研究センター中央普及支援センター梅田担当課長から、「現在、草丈は確保されており切花長は十分期待できる。今の時期からの肥培管理等が重要となる。まだまだ挽回が可能な時期であり、他産地の状況も参考にしながら土壌条件に合った独自の栽培技術を確立してほしい。」とのアドバイスがありました。

また、全農いしかわ園芸課の池田さんからは、各JAの出荷計画について報告がありました。本年は、栽培面積で昨年の1.5倍、出荷量は2倍近くになることが予想され、できるだけ早い時期から市場との連絡を密にして、来年につながる価格を確保できるよう取り組んでいくことで意見がまとまりました。



現地巡回の様子
(宝達志水町、稲垣農園)



検討会の様子
(県農林総合事務所会議室)



加賀地区巡回の様子
(JA加賀管内)

花き戦略品目の育成について

県では、多岐にわたる品目のうち、自然条件や高い技術力を活かした栽培で市場から高く評価され、ニッチトップを目指すことができる品目として、①切花葉ボタン、②サンゴミズキ、③ニューサイラン、④ケイトウ、⑤金銀ペイント加工品の5品目を花き戦略品目に選定しました。このうち、産地化の方針が明確になっていない①~③について、当協会が全国に誇れ

る品目及び産地を育成していくための県全体の生産販売戦略づくり等を行う事業を実施することになりました。

今後、これら花き戦略品目の生産拡大を図りながら、生産面・販売面での課題解決に取り組んでいきたいと考えていますので、会員の方々のご協力をお願い申し上げます。

金銀ペイント	ケイトウ	ニューサイラン	サンゴミズキ	切花葉ボタン
枝ぶり(剪定技術)の良さ、 金銀の色艶が実需者から高く 評価 ○生産額全国順位:2位	茎が細く花首が硬い ○生産額全国順位:6位	葉先が裂けにくくきれいな縦 縞が入る ○生産額全国順位:2位	色がきれいで早期出荷が可能 ○生産額全国順位:3位	色がきれいで早期出荷が可能 ○生産額全国順位:8位
金銀ペイント 取組主体:JAはくい野水花木研究会	ケイトウ 取組主体:JA松任	ニューサイラン サンゴミズキ 切花葉ボタン 取組主体:石川県花き園芸協会		

会員の活動を紹介

【JA松任花き部会】

＊周年出荷を実現！花き専作のプロ集団＊

松任では、昭和30年頃より一木地区を中心に、バラ、チューリップ、スイセンの生産が始まり、今日まで花の主要品目を多数栽培するなど、長い歴史があります。現在部会員は9名で、砂丘地から壤土まで異なる形態の中、洋花、草

花を中心に花き専業の経営を行っています。

生産の特徴は、周年出荷体制の中で、県内産の花きが少ない冬季から春にかけて、デルフィニューム、ヒマワリ等を多く生産しています。主要品目のデルフィニューム、ヒマワリ、トルコギキョウ、グラジオラス、葉ボタンは、松任産として市場占有率も高く、高品質との評価を